

船舶技術研究所報告（第29巻第6号）に掲載の論文等の紹介

研究報告の紹介

造船 CIM の将来像の考察

橋爪 豊、他

最近、大学、造船学会、シップ・アンド・オーシャン財団を初め造船界の各方面で、造船 CIM の研究が精力的に取り組まれている。

当所においても、この数年、将来の造船 CIM に関する研究を実施した。本報告はその成果をまとめたものである。

本報告には4つのテーマが含まれている。

- (1) 造船 CIM の現状と将来イメージの一考察
- (2) 船体の組立手順の自動生成アルゴリズムの導出及び船体の自動建造システムの概念設計の研究
- (3) 造船業のような大規模製造業におけるマン・マシン・インターフェースの高度化の研究
- (4) 造船 CIM の経済性評価手法の研究

造船 CIM の将来像の一考察

橋爪 豊

本報告では、まず造船業が同じ製造業でも、自動車産業とは大きく異なった特徴を有しており、従って造船 CIM の目的が自動車産業の CIM とは異なることを述べている。次に、日本における主な造船 CIM 研究プロジェクトについて簡単に紹介し、当所における造船 CIM 研究の内容について概要を説明した。最後に、将来の造船 CIM の進むべき展望について簡単な考察を行い、将来は、①設計部門と、開発、研究部門の緊密化、統合化が進むこと、②生産部門では、工場の知的な自動化、省人化が進むことを展望している。